

☼ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☼
～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

小学生読書リーダー養成講座が開催されました

今年の小学生読書リーダー養成講座は、6月9日、16日、23日の土曜日に3日間開催され、71校231名の子どもたちが熱心に参加しました。子どもたちは、この講座で学んだことを学校で発揮し、きっと大いに活躍してくれるでしょう。

開講式では、教育委員会の木下学校指導課長（9日）、福岡市総合図書館の中川副館長（16日、23日）が挨拶をしました。



(挨拶をする木下学校指導課長)

講座1 「読書リーダーとは」



(瀬村主任指導主事の説明)

講師は学校指導課の瀬村主任指導主事でした。講師の先生から、読書の楽しさや面白さを伝えることや、新しい読書活動の取り組みを作ることなどが読書リーダーの役割だということ学びました。

講座2 「本の探し方」

講師は学校図書館支援センターの重村読書相談員でした。講師の先生から図書館の配架の仕組みや本の目次と索引の使い方などについて学びました。子どもたちは、講師の先生の質問に元気に手を挙げ答えていました。

《養成講座の次第》

- ・オリエンテーション
開講式
- ・講座1
「読書リーダーとは」
- ・講座2
「本の探し方」
- ・昼休み
- ・講座3
「絵本の読み聞かせ」
- ・講座4
「POPを作ろう！」



(重村読書相談員の説明)



(説明を熱心に聞く子どもたち)



(元気に手を挙げる子どもたち)

講座3 「絵本の読み聞かせ」

講師は学校図書館支援センターの小久井相談員でした。講師の先生から読み聞かせに合った本の選び方や読み聞かせをする時のポイントを学びました。その後、1グループ7人から9人に分かれて読み聞かせの実習をしました。実習の最後に、グループの中で実習の成果を披露しました。



(小久井読書相談員の読み聞かせのお手本) (絵本の持ち方の指導)



(グループの人の前で読み聞かせの実演)

講座4 「POP*をつくろう！」

学校図書館支援センターの重村読書相談員を講師として、POPを上手に作るためのポイントを学びました。その後、自分が持ってきた本のPOPを作りました。子どもたちは、フェルトペンで字を書くだけでなく、色紙を使ったり、ハサミで好きな形に切ったりして、一生懸命POPを作っていました。

※POP（ポップ）とは、本の魅力を紹介する掲示用のステッカーです。



(POPを一生懸命作る)



(POPに色紙を貼っている)



(POPで工夫したところを発表)

修了式

木下学校指導課長（9日）、中川副館長（16日、23日）から参加者の代表者に認定証と読書リーダーバッジが渡されました。子どもたちは、認定証やバッジを受けとりとても嬉しそうでした。丸一日講座に参加して疲れていたにもかかわらず、子どもたちの修了式に臨む態度は立派でした。



(中川副館長から認定証をもらう代表の子
ども)



(背筋を伸ばして修了式に参加している子
どもたち)



(嬉しそうに読書リーダーバッジを
見る子どもたち)

8月生まれの文学者



村上 康成 (むらかみ やすなり) と「ピンク、ぺっこん」

1955年8月11日 岐阜県群上市生まれ

「絵本も描けるウクレレ釣り師」と異名を持つ絵本作家の村上氏は、小・中学を瑞浪という陶器の町で育ちました。小さい頃は、日常生活の中に絵本などなく、魚釣りと絵を描くことばかりしていました。物心ついた頃から木曾川など近くにたくさんあった川へ父親に連れられ釣りに行っていたため、魚以外の生態系にも詳しくなりました。外で元気に飛び跳ねる一方で、徹夜して絵を描いたこともありました。中学・高校は絵を描くだけでなく野球、大学はヨットにも熱中していました。

絵本作家になることを決めたのは、美大を目指して浪人していたときに、近くの本屋で原画展があり、その原画がもとに絵本になった谷内こうた氏の「のらいぬ」を見て、体が震えるような感動を味わい、「こんなすばらしい表現世界はない!」と思ったからでした。

「ピンク、ぺっこん」に登場する「ヤマメのピンク」は、絵本を描いて出版社に持ち込み全然だめだったとき、酒を飲みながら釣りや魚の話をしていたら、編集者から「そんなにヤマメが好きなら、それで絵本を描けばいいんじゃない。」と言われたことで誕生しました。

村上氏は、絵本を読み終わったときに感動が残るような絵本をつくりたいと思っています。そのためにこだわっている一つが「間」です。絵本には、一筆も描かないページや文字の一切ないページなどをつくっています。村上氏は絵本を書くだけでなく、「さつまのおいも」など、絵本の表紙やさし絵も描いています。伊豆高原に村上康成美術館、石垣島には村上康成絵本ギャラリーがあります。



白石 一文 (しらいし かずふみ) と「彼が通る不思議なコースを私も」

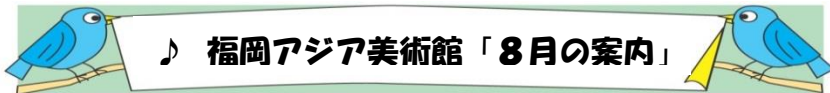
1958年8月27日 福岡県福岡市生まれ

白石氏は、福岡県立福岡高等学校を経て、早稲田大学政治経済学部を卒業後、文藝春秋に勤務しました。そして、2000年「一瞬の光」を発表しました。小さい頃団地に住んでいて、家にたくさんの本があり、文字が氾濫していました。そのため、本を読むのが当たり前で、はやくから字を読め、6歳の頃には小説を読んでいました。身体が弱く、小学校に入る頃に喘息がはじまったので、いつも家で勉強するか読書をしていました。本は小学2年で字面を追っているだけでしたが、「罪と罰」など読みました。他にも、「シートンの動物記」「グリム童話」などいろいろな本をたくさん読み、小学4・5年の頃からコナン・ドイル氏の作品も読み始めました。新聞は、小学2・3年の頃から読んでいました。中学の頃は、江戸川乱歩全集や井上靖氏の「蒼き狼」など、高校では、山本周五郎氏の作品に熱中していました。

作家になろうと思ったのは、大学1年の冬、2年になる直前くらいでした。そこから芥川賞を受賞した作品などを読み、「ほかならぬ人へ」で第142回直木賞を受賞しました。

また、特別な能力を持つ男とその伴侶を描く「彼が通る不思議なコースを私も」は、教えることや生きることの意義など、いろいろ考えさせられる作品です。

白石氏はいろいろな本を読んでいます。また、「墓場の鬼太郎」「火の鳥 未来編」などの漫画にも熱中したそうです。白石氏の父は、「海狼伝」で直木賞を受賞した白石一郎氏、「寵児」などを書いた白石文郎氏は双子の弟です。



♪ 福岡アジア美術館「8月の案内」



*アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

26日(日), 28日(火)

- ・時間: 11:30~12:00, 13:00~13:30
- ・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

「おいでよ!絵本ミュージアム2018」

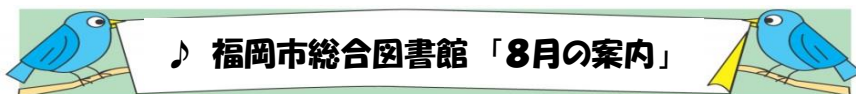
- ・会期: 7月19日(木)~8月19日(日) ※会期中無休
- ・時間: 10:00~18:00 (入場は17:30まで)
- ・観覧料: 一般1000円(800円), 高・大生700円(500円), 小・中学生500円(300円), 未就学児は無料
※()内は前売り, 団体料金※チケットは当日に限りフリーパス
- ・内容: 子どもたちの感性や想像力・創造力をはぐくむために, 五感に働きかける様々な仕掛けやオブジェ, 絵本の世界観を感じることができる空間をプロデュースします。12回目を迎える今回は, これまでのノウハウを活かしながら, 約1000冊の絵本と原画の展示や様々なイベントを通して, 子ども時代, 子どもならではの感性の大切さを伝えます。



(おいでよ!絵本ミュージアム2018)のポスター (c)三浦太郎

※「おいでよ!絵本ミュージアム2018」の期間中は, 絵本の読み聞かせを毎日開催!

・時間 11:30~, 13:00~ (1日2回)



♪ 福岡市総合図書館「8月の案内」



*毎月のおはなし会

4日(土), 5日(日), 11日(土), 12日(日)

18日(土), 19日(日), 25日(土), 26日(日)

- ・時間 土曜日: 4日
 - 14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会
 - 14:50~15:10 幼児・小学生向けおはなし会
- 11日
 - 14:30~14:50 幼児・小学生向けおはなし会
 - 14:55~15:10 つくってみよう やってみよう
- 18日
 - 14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会
 - 14:50~15:10 幼児・小学生向けおはなし会
- 25日
 - 14:30~15:00 幼児・小学生向けおはなし会
 - 14:55~15:10 つくってみよう やってみよう
- 日曜日: 14:30~15:00 幼児向けおはなし会
 - 15:15~15:45 小学生向けおはなし会

・場所: 「こども図書館 おはなしの家」

□ 図書館員のひみつの本棚 《 No.147 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回の本は、なぞなぞあそびうたの本です。この本は、リズムカルな言葉と楽しい絵がたくさんです。なぞなぞに出てくるものは、えんぴつや歯ブラシなど子どもたちに身近なものです。なぞなぞ好きな子どもたちをきっと夢中にしてくれる本だと思います。子どもたちといっしょに楽しんでほしい本です。

☆ 今月の本

『なぞなぞあそびうた』『なぞなぞあそびうたⅡ』

角野 栄子／作 スズキコージ／絵 のら書店 1989年 1992年

☆ あとがき

6月にあった小学生読書リーダー養成講座の参加者に、2年続けて参加している子どもが何人かいました。2年続けて参加した理由は、「昨年初めて参加して、とても楽しかったから」などでした。子どもたちにとって、図書館の本の配架やPOPの書き方、読み聞かせの仕方など、初めて知ったことや経験したことがいろいろあり楽しかったからだと思いました。また、修了式で渡された読書リーダー認定証を大切にリュックにしまったり、読書リーダーバッヂを嬉しそうに触ったりしている子どもたちが、たくさん目に留まりました。

数校の学校の先生や学校司書が、土曜日で休みにもかかわらず講座に参加した子どもたちの様子を見に来ておられました。きっと、子どもたちが講座で学んだことを、学校の委員会活動や読書の推進に生かしてもらえらるだろうと思います。

発行：福岡市教育委員会 生涯学習課

電話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第147回

今月はなぞなぞの本をご紹介します。

『なぞなぞあそびうた』『なぞなぞあそびうたⅡ』

角野 栄子／作 スズキコージ／絵 のら書店 1989年 1992年 1296円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 低学年☆☆☆ 中学年☆☆ 高学年☆☆ 中学生——
高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

詩のなぞなぞの本。なぞなぞとしてはもちろん、詩を味わっても楽しめます。

1 ページに1つのなぞなぞ。なかなか難しいものもあるので、大人も子どもも夢中になってしまう1冊です。

絵本のよみきかせやおはなし会のプログラムに入れると、ちょっと遊びが加わって楽しい雰囲気になります。

雨の日や移動の合間、夜寝る前などに家族で楽しむのもおすすめです。

<子どもに手渡す時のポイント>

最初に巻頭にある「なぞなぞの詩」を読んでからなぞなぞに入ると、本の雰囲気がよく伝わります。なぞなぞはどのページから読んでも楽しめます。なぞなぞとして最初に1、2回詩を読んで、答えが出た後にぜひもう一度ゆっくり詩を読んであげてください。答えがわかってから詩を聞くと、子どもたちは詩の情景を思い浮かべながら詩を味わってくれます。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

